

筑陽学園中学・高等学校で、手作り箱カメラに関する体験学習を実施しました

九州工業大学情報工学府と筑陽学園中学・高等学校は相互の教育に係る交流・連携を図ることを目的として、連携協定を締結しています。

2025年11月18日、連携協定の一環として、荒川技術部長による、「手作り箱カメラでレンズの法則の実証実験」と題した体験学習を、中学生65名を対象に実施しました。

体験学習では、まず光や凸レンズの基本的な性質を学んだ後、箱カメラの製作に取り組み、教員1名、学生サポート3名、技術職員2名が支援しました。その後、完成したカメラを用いて、レンズを通して像がどのように結ぶのかを観察し、対象物とレンズの距離、レンズからスクリーンまでの距離を測定してグラフに記録しました。

この体験学習を通して、理科で学ぶ凸レンズの性質や、数学で学ぶ反比例などを身近に感じられる経験となり、参加した学生たちは高い関心を示しました。

技術部では、今後も理系分野への興味・関心を高めるテーマや教材の提供に努めるとともに、理系への興味づけにつながる活動を積極的に展開していきます。

<講 師>

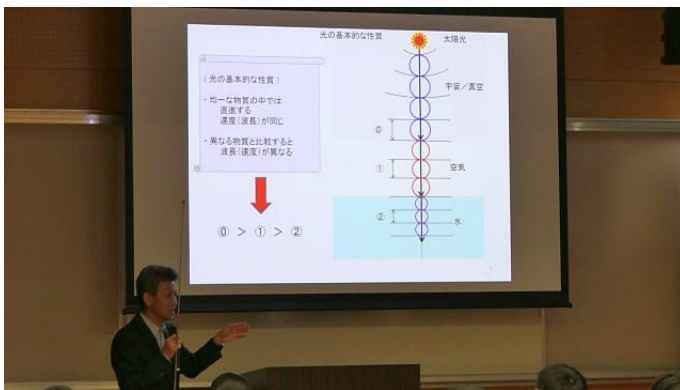
荒川

<補 佐>

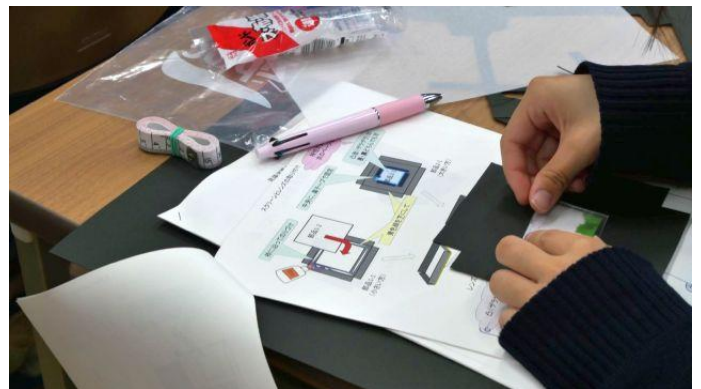
月原、村山

山本 邦雄（情報工学研究 院 知能情報工学研究系）

学生 TA 3 名



講義の様子



カメラ製作の様子